

1. 時間外勤務時間が月 80 時間超の教職員の割合をゼロに近づけるための取組事例の紹介

取組事例	成果	課題
校務支援システムの活用	予定入力、連絡事項は C4th 掲示板 代表メールでの研修会・通知等の案内は C4th の個人宛メール・掲示板で転送	
たより等の電子化、連絡アプリなど ICT の有効活用	印刷や配付の手間が大幅に削減、 効率的な資料配付や情報共有	地域からの根強い紙媒体の要求 情報の整理が不十分な面あり ICT化に携わる教員の負担増
一担当部署のみで実施している業務の分担見直し	体験入学やスポーツフェスティバルなど、 多くの教員が携わることによる「チーム学校」の醸成	各課の業務の進捗状況など現状を把握することが不可欠
学年ごとの教科担任制	1 つの教材研究で数クラス活用でき、教材研究の負担軽減 教員の得意分野を活かした指導が可能	時間割編成の苦勞
帯タイムの時間、掃除時間を削減・水金の掃除時間を帯タイムとした	職員の教材研究、校務事務作業の時間を確保	放課後の子どもの受け皿が十分でない (学童保育も飽和状況にある)
年間授業時数を踏まえ、学期末、学期始めの授業 5、6 限を cut	職員の校務事務作業の時間を確保	
教員の終礼を週 2 回に削減	職員の会議の時間、校務事務作業の時間を確保	
生徒の部活動終了後の下校時刻 5 時限の日は 17:00、6 時限の日は 18:00 (11 月からの冬季は更に 15 分短縮)	職員の出退勤時間に变化あり デスクワークの時間確保	
部活動の活動時間(平日 2 h、休日 3 h)や休養日(平日 1 日、週末 1 日)の設定	時間外勤務時間の縮減に一定程度つながっている	練習時間と競技力にはある程度相関があり、競技力の向上面に課題が残る
2 日間で行っていた学校行事を 1 日で実施 行事の開・閉会式も簡素化	教員だけでなく、保護者の負担も軽減	移動に貸切バスを使用(移動費が必要)
週末の学校行事の廃止や平日移行	時間の縮減以上に職員の多忙感の解消につながっている	授業時間の確保や、授業時間のバランスの確保の面で工夫が必要

〈他の困った事柄〉

- ・若手が経験していないことが多くなり、フォローする管理職の負担が増大
- ・保護者への対応は、勤務時間終了後がほとんどである
- ・学校外の団体からの要請により、教職員の休日勤務が多くなる  
(休日に実施される公民館の各種イベント等に生徒の出演依頼が増、各種団体において参集型の表彰式等が復活、など)

2. 今後深掘りできそうな取組についての意見

- ・出張や研修において、オンライン参加と集合型のハイブリッド化
- ・学校外の行政機関及び各種団体からの生徒・職員に対する出席依頼や参加依頼等の精選
- ・学校及び PTA に依頼される〇〇教室、〇〇教育の実施の精選、PTA の研修等の時間帯や職員の参加体制等の見直し
- ・生徒会行事等、生徒のアイデアの更なる活用
- ・地域や業者への委託業務を増やすことができるよう予算化
- ・報告文書の簡素化(記述部分の削減)、集計データの共有、使いまわし(いじめ、不登校調査等)
- ・校務の一層の ICT 化(県庶務事務システムのような諸願届等の電子化)
- ・校内各課のデータを一本化
- ・生徒指導対応への人員増(対象:児童・保護者)、別室登校児への人員増
- ・スクール・サポート・スタッフや ICT 支援員、スクールカウンセラーなど専門的スタッフの更なる活用
- ・部活動指導員の拡充と部活動指導員の役割の拡大
- ・少人数の部活動引率を複数の学校の教員で分担
- ・部活動大会の平日開催
- ・部活動の地域移行